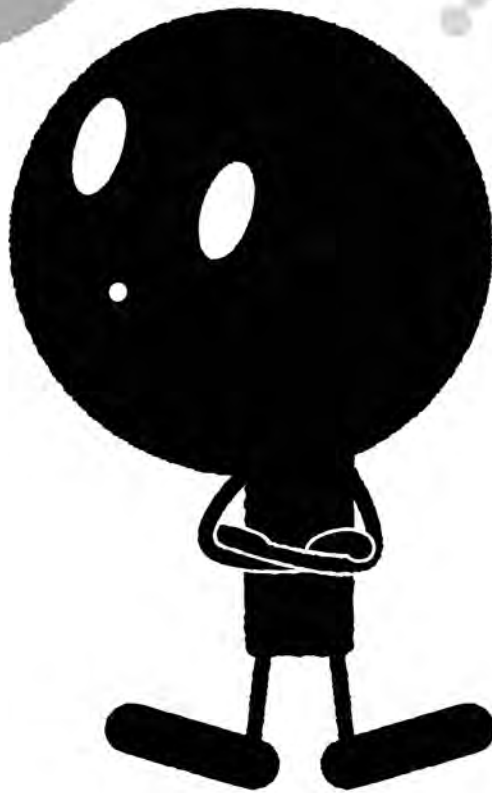


キャリア教育って 結局何なんだ？

中学でやる意味、
ホントにあるの!?



ひら

自分と社会をつなぎ、未来を拓くキャリア教育

— 中学校におけるキャリア教育推進のために —

キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な能力等を育てる教育です。

そんなことを目指しても、中学校の課程は本当に必要なものだろうか？—こうした考えは、いろいろな先生方もいらしたかもしれません。しかし、キャリア教育が今日の中学生にとって重要であることは示す必要がありません。すでに各都府県によって導入されています。その一部を本（フリップ）P.11ページに掲載しましたのでご覧ください。

中学校には、生徒が今の自分を長くつづけていくための自立の力を育て、将来の自分の夢を思い描き、思い描いた夢を実現するための準備を促すことが必要です。必要なのは、夢がかなうための準備です。夢がかなうための準備とは、自分と社会をつなげる準備です。自分と社会をつなげる準備とは、キャリア教育を一言で言えます。

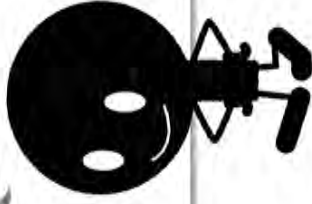
進学
社会での活躍

小学校におけるキャリア教育
中学校におけるキャリア教育

キャリア教育が目指すもの

- 一人一人のキャリア発達を支援します。
- 学ぶことや働くこと、生きることの喜びを体験させ、学ぶ意欲を向上させます。
- 将来の社会的・職業的自立の基盤となる資質・能力・態度を育てます。
- 望ましい進路選択を促します。

中学でのいろいろな活動も
ちよつとした工夫で
キャリア教育に発展するんだ！



中学校におけるキャリア教育

家庭・地域社会との連携・協力

中学1年生



○ **たとえば 保健体育**
団体競技で、仲間の大成功、ルール
の大切さを味わう



○ **たとえば 進路の時間**
自己の向上を促し、進路を併走し
て、現実的な進路を選択しよう



○ **たとえば 学芸活動**
学校でよく働くことの楽しさについて
思いっきり、ディベートを行ったり
しよう



○ **たとえば ポランティア活動**
共に助け合って生きることの喜びを
体験しよう

中学2年生



○ **たとえば 理科**
理科で学習することが様々な職業
と関係していることを味わう



○ **たとえば 職業体験活動**
自分の学習に活用して、自己
を理解し、将来の生き方を考えよう



○ **たとえば ポランティア活動**
共に助け合って生きることの喜びを
体験しよう

中学3年生

意思決定能力

人間関係形成能力

将来設計能力

情報活用能力など

社会的・職業的自立に向けて

必要な能力等を体系的に育てる

進学

中学校卒業

社会での活躍



詳しくは
次頁から

1年生のキャリア発達の課題

- 自分の長や短所が分かる。
- 自己と他者の違いに気付く、尊重しようとする。
- 集団の一員としての役割を理解し果たそうとする。
- 将来に対する漠然とした夢やあやかりを語る。

2年生のキャリア発達の課題

- 自分の活動が、他者に及ぼす影響について理解する。
- 社会の一員としての目標が学生生活とともに社会や大人を客観的にとらえる。
- 将来への夢を達成する上で現実の問題に直面し、挑戦する。

3年生のキャリア発達の課題

- 自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進める。
- 社会の一員としての責任と責任を認識する。
- 将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服する努力に向かう。

中学校におけるキャリア教育の目標

- 肯定的自己認識と自己有用感の獲得
- 将来志向に基づく進路選択意欲の促進
- 進路計画の立案と実行の遂行
- 生き方や価値観に関する思考の涵養

教科でも進めよう！キャリア教育

キャリア教育のねらいと関連する主な内容(活動例)



各教科におけるキャリア教育の意義は？

子どもたちの日常の学習態度や生活態度は、自分の進路や将来設計に重要な役割を担っています。大まかに影響を受け、大きな影響を受けている。今の学習が将来どのような進路につながるのかという点についての発見や自覚が、子どもの学習に対する姿勢の改善につながるが、そのことが家にも波及していくことで、学習意欲の向上が期待されます。

先達の取組事例

キャリア教育や英語、家庭科や保健体育の授業に、小中連携のキャリア教育の要素を取り込んでいます。本学では、新課程の学習について、小中学生と連携して進めようとしています。その一例をご紹介します。

例) 英語：将来・進路について役立つこと

英語学習や英語、家庭科や保健体育の授業に、小中連携のキャリア教育の要素を取り込んでいます。本学では、新課程の学習について、小中学生と連携して進めようとしています。その一例をご紹介します。

例) 英語：将来・進路について役立つこと

英語学習や英語、家庭科や保健体育の授業に、小中連携のキャリア教育の要素を取り込んでいます。本学では、新課程の学習について、小中学生と連携して進めようとしています。その一例をご紹介します。



数学

● 中学校学習指導要領との関連
数学のよさを認識し、活用して考えたり計画したりしようとする態度の育成

活動例
● 算定を学習することの意義や、算定の必要な場面を学習する機会を設定する。



国語

● 中学校学習指導要領との関連
読書に活用し正確に理解する態度、及び伝え合う態度の育成

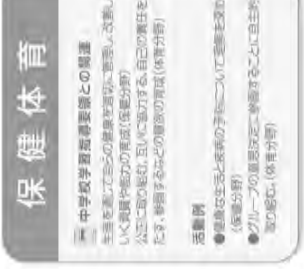
活動例
● 日常生活の場面において読書や情報を使う。
● 社会生活に必要な読書や情報を使う。
● 読書や情報の条件における適切なスピーチを行う。



保健体育

● 中学校学習指導要領との関連
生活や遊びの楽しさを適切に管理し、改訂していく読書や読書の育成(読書活動)の育成、読書の楽しさを共有し、読書の楽しさを共有する。

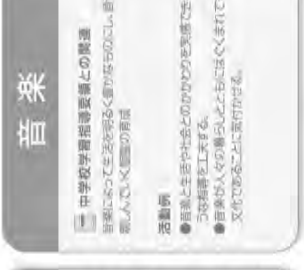
活動例
● 読書は生活と読書の学習について理解を深める。(読書活動)
● グループの読書活動に積極的に参加することにより、読書の楽しさを共有する。(読書活動)



音楽

● 中学校学習指導要領との関連
音楽によって生活や遊ぶ楽しさを共有し、音楽に楽しんでいく態度の育成

活動例
● 音楽と生活や社会とのつながりや関わりを表現できるよさを共有する。
● 音楽が人々の暮らしや文化に与える影響を共有し、文化を共有することを目指す。



道徳

● 道徳教育の目標——
道徳の心構え、行動力、実践態度と道徳意欲の育成

活動例
● 道徳の心構え、行動力、実践態度と道徳意欲の育成



社会

● 中学校学習指導要領との関連
個人や社会との関わりや役割の理解を深め、現代社会について理解を深め、責任ある行動を促す。

活動例
● 個人や社会との関わりや役割(社会)を深める方法や考え方の理解を深める。



美術

● 中学校学習指導要領との関連
生活や遊びの楽しさを共有し、読書の楽しさを共有する。

活動例
● 読書や情報等の読書や読書の楽しさを共有する。
● 読書や情報等の読書や読書の楽しさを共有する。



理科

● 中学校学習指導要領との関連
科学技術の発展と人間生活との関わり

活動例
● 科学技術の発展と人間生活との関わりを共有する。
● 科学技術が日常生活や社会に与える影響、安全の向上に役立つことについて共有する。



外国語

● 中学校学習指導要領との関連
外国語コミュニケーション能力の育成

活動例
● 外国語の発展と人間生活との関わりを共有する。



総合的な学習の時間

● 総合的な学習の時間を通して、自ら学び、自ら考え、主体的に考え、協力して問題を解決する態度や能力を育成する。

活動例
● 自ら学び、自ら考え、主体的に考え、協力して問題を解決する態度や能力を育成する。



特別活動

● 特別活動を通して、心身の健康に資する態度や能力を育成する。

活動例
● 特別活動を通して、心身の健康に資する態度や能力を育成する。



技術・家庭

● 中学校学習指導要領との関連
生活や遊びの楽しさを共有し、読書の楽しさを共有する。

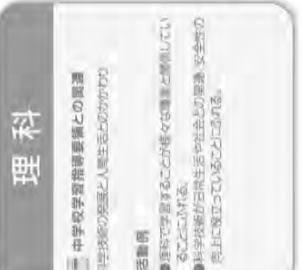
活動例
● 生活や遊びの楽しさを共有し、読書の楽しさを共有する。



技術・家庭

● 中学校学習指導要領との関連
生活や遊びの楽しさを共有し、読書の楽しさを共有する。

活動例
● 生活や遊びの楽しさを共有し、読書の楽しさを共有する。



技術・家庭

● 中学校学習指導要領との関連
生活や遊びの楽しさを共有し、読書の楽しさを共有する。

活動例
● 生活や遊びの楽しさを共有し、読書の楽しさを共有する。



技術・家庭

● 中学校学習指導要領との関連
生活や遊びの楽しさを共有し、読書の楽しさを共有する。

活動例
● 生活や遊びの楽しさを共有し、読書の楽しさを共有する。



技術・家庭

● 中学校学習指導要領との関連
生活や遊びの楽しさを共有し、読書の楽しさを共有する。

活動例
● 生活や遊びの楽しさを共有し、読書の楽しさを共有する。



技術・家庭

● 中学校学習指導要領との関連
生活や遊びの楽しさを共有し、読書の楽しさを共有する。

活動例
● 生活や遊びの楽しさを共有し、読書の楽しさを共有する。



生徒が伸びる職場体験活動を！ 3年間で見た事前学習・事後学習の工夫・充実

事前学習

キャリア教育の効果的な導入のために、小学校での取組を把握しよう！

■ 各校の小学校からの情報収集、1年生からの聞き取りなど
小学校での活動例

- 11の記入式を贈ろう ～大人になるっていいね～ <4年>
- 写真展から社会の気づき ～仕事の意味を探ろう～ <5年>
- マイクドットライヴ ～夢や希望をもち、努力すること～ <6年>



事前学習 例) 中学校1年生

将来の夢や職業、働くことなど、自分の生き方について考える

取組内容例

- 自分の生き方を考えよう
 - ・職業シミュレーションなどを通して、身近な人々の興味・関心の傾向の分析
 - ・職業人講話(保護者や地域の人が)
- 職業について考えよう
 - ・家庭に1働くことについてインタビュー

1 Point

具体的な活動を通して、身近な人々の職業や生き方について知り、自分の将来や仕事について考えることが出来るようになります。

事前学習 例) 中学校2年生

職場体験活動のねらいを理解し、自分の課題を明らかにする

取組内容例

- これまでの学習の振り返りと体験活動のねらいの確認
- 体験活動の意義、意義の共有
- 体験活動への期待や疑問点によるグループでの話し合い
- グループで課題の時期に備えることの意味
- 体験活動の振り返り、事後学習の準備

1 Point

ねらいや課題を十分に理解出来るようになる。

職場体験活動 例) 中学校2年生

保護者や体験先と連携し、生徒をしっかりと見守り、かかわろう

仕事内容例(販売業)と生徒の反応

1日目	<ul style="list-style-type: none"> ○歓迎、説明、接客、販売の練習 ○自分たちで販売の準備をする
2日目	<ul style="list-style-type: none"> ○商品の準備、接客、販売の練習 ○自分たちで販売の準備をする
3日目	<ul style="list-style-type: none"> ○商品の準備、接客、販売の練習 ○自分たちで販売の準備をする
4日目	<ul style="list-style-type: none"> ○商品の準備、接客、販売の練習 ○自分たちで販売の準備をする
5日目	<ul style="list-style-type: none"> ○商品の準備、接客、販売の練習 ○自分たちで販売の準備をする



1 Point

保護者や体験先の連携し、生徒をしっかりと見守り、かかわる。

充実した職場体験活動のために

職場体験活動は、一日のイベントにするのではなく、あじふてマナー講習、接客会等の定期的な活動、生徒の成長に合わせた事前学習、事後学習などを行う。将来的な準備、働くことなど、自分の生き方

職場体験活動の成果

- 体験を通して、私は、働く打撃が大事なこと、目標を持ちたいこと、頑張る、行動が大切だということも分かった、今から準備しようと思うようになった。
- あじふてマナー講習、接客会等の人とのつながり、自分の成長、自分の課題、自分の課題を明らかにする。
- 職場で働く人たちの真実を知ることが出来た。



Q. 今回の職場体験活動を通して、自分がこれから身につけておきたい力は何か、

- (1) 資料の学力
- (2) 意思と体力
- (3) 精神が我慢できるかなど
- (4) 礼儀や言葉遣い、時間を守るなどの基本的マナー
- (5) 人よりの力やコミュニケーション能力
- (6) 粘り強さ
- (7) その他



事後学習 例) 中学校2年生

職場体験活動を振り返り、その意義を考え、学びを共有する

取組内容例

- 職場体験ノート、記録簿のまとめ
- 生徒で職場体験活動へのアンケート等による多様な評価
- 礼儀の作成、事後学習
- 職場体験報告発表会

1 Point

体験が自分にとってどのような学びをもたらしたか、その意義を共有する。

事後学習 例) 中学校3年生

職場体験活動の経験をもち、学習意欲を高め、将来の進路に向けての主体的な学習を進めながら、自分の進路を考え選択していく

取組内容例

- 進路や関心などを生かして進路を考えよう
 - ・中学校卒業後の進路の選択決定
 - ・職業生活を考えていく
 - ・主体的な進路選択への支援

1 Point

自分の将来の進路を明確にするために、自分の進路や関心などを生かして進路を考えよう。

総合的な学習の時間を生かそう

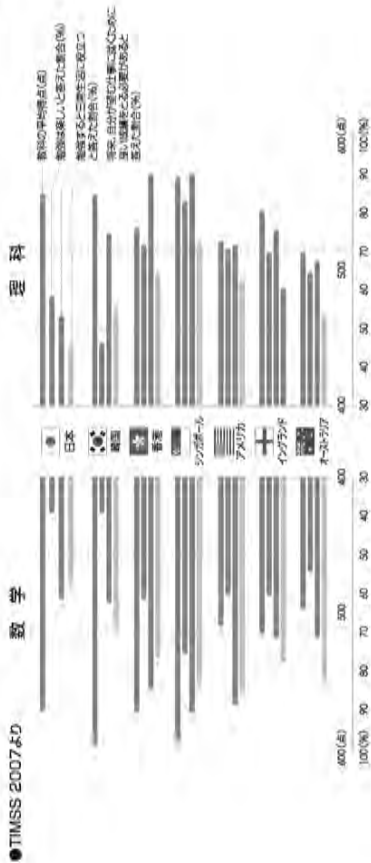
総合的な学習の時間における職場体験学習の一環として、職場体験活動を活用することは、3年生を卒業した卒業生、現職者、キャリア教育実践者の有効な手段の一つです。



データが語るキャリア教育の必要性

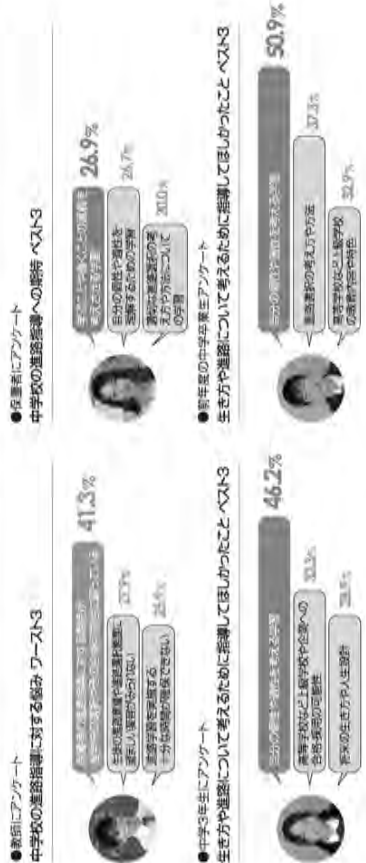
- A. 生涯 キャリア教育の必要性(職業別) 職業別キャリア教育の必要性(職業別) (横軸)
- B. 生涯 キャリア教育の必要性(職業別) 職業別キャリア教育の必要性(職業別) (縦軸)
- C. 生涯 キャリア教育の必要性(職業別) 職業別キャリア教育の必要性(職業別) (縦軸)
- D. 生涯 キャリア教育の必要性(職業別) 職業別キャリア教育の必要性(職業別) (縦軸)

A. 現在の学習と将来の仕事とが結び付かない中学生



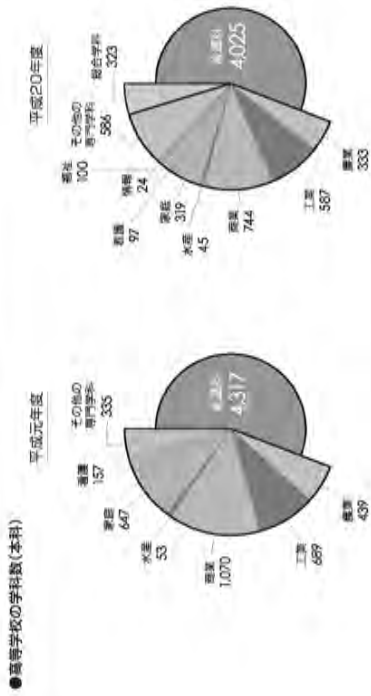
日本の中学生の半数はおおむね良好ですが、将来やりたい仕事のために数科目をがんばらなくてはならないという現状が、学習意欲の向上につながるキャリア教育の必要性が示されています。

B. キャリア教育推進に対する生徒・保護者の大きな期待



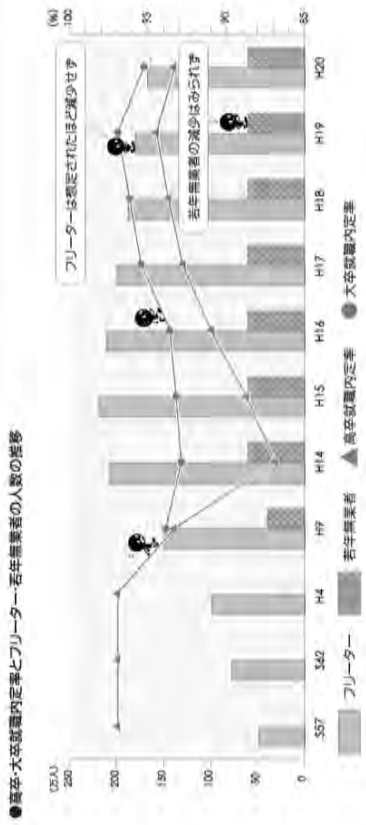
生徒・保護者が期待していることや悩んでいることは、今日のキャリア教育が推進される際の参考にしたい。いかに生徒・保護者の期待や悩みを捉え、対応していくかが重要である。

C. 進展する高等学校の多様化



この10年ほどの間に高等学校が従来の文系・理系科目に加え、職業科の増加のほか、実践、芸術、国際関係などの多様な「その他の専門科目」の増加も確認され、職業に関する専門科目の増加も目立ちます。特に、職業科においても特色あるコースなどが導入されています。高校進学に向けても、様々な進路選択の方向から主体的に自ら進んで進路を選択するキャリア教育がますます必要とされていると認識を深めます。

D. 学校から職業への移行に困難を抱える若者たち



この数年、平成20年以降にフリーター・若年無業者の増加が顕著となり、フリーター・若年無業者の増加が顕著です。若年無業者(いわゆるニート)の増加は、若年無業者の増加が顕著です。若年無業者の増加が顕著です。若年無業者の増加が顕著です。若年無業者の増加が顕著です。



Q1 従来の進路指導とキャリア教育とはどう違うのですか？

A 進路指導は、従来「職業」を中心としたキャリア教育との間に大きな違いは見られず、その範囲は、キャリア教育の中核をなすことになっています。

と答えていよう。
その一方で、進路指導は中学校・高等学校における教育活動として扱われてきたが、キャリア教育は学校教育から高等専門学校までの様々な教育機関において実施されていることに基づき、成人も対象として扱います。

また、キャリア教育は、職業生活、家庭生活、市民生活等における様々な立寄りの場をキャリアとして捉え、一人一人に合わせたキャリアを形成し、自立していくための必要経路、必要な能力を養成することを旨としています。この意味で、進路指導とキャリア教育の目的は、同一である

キーワード「キャリア」
キャリアの原語
「キャリア」(career)はラテン語の「道」を起源とし、英語で、道、職業や進路におけるコースやその軌跡、経路、道程などを意味する。

キャリアの定義
様々な生活にわたって遂行する様々な立場や役割の連続及びその過程における自己と他との関わりや関係付けの連続

Q2 キャリア教育のねらいは4つの能力(人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力)を伸ばすことでしょうか？

A これら4つの能力は、一般的に、社会的自立を図る上で必要な能力であると考えられ、発達段階を通じて育成されるものです。
これは、キャリア教育を通じて身に付けさせる様々な能力の側面を例としてとらえることができます。(文部科学省「小学校・中学校・高等学校、キャリア教育推進の手引」(平成18年11月))

各学校では、これら4つの能力を参考にしながら、学校や地域の特色、子どもたちの実情に、身に付けさせる能力を検討することなどから、効果的にキャリア教育を進められるとされています。

Q3 よく「キャリア教育の視点」と言いますが、この「視点」とは何が教えてくださいますか？

A 子どもたちが、将来、社会的自立・職業的自立を促すためには、小学校・中学校・高等学校において、一人一人が卒業の段階でそれぞれの立場で選んでいることに基づき、キャリア教育の「視点」とは、将来の社会的自立・職業的自立を促すことに基づき、子どもたちの成長や発達を促す上での見方・考え方です。

から、適時性や継続性などに配慮した創意工夫ある活動展開が求められます。
中学校では、小学校での様々な教育活動(より身に着けた能力や知識を土台として、社会体験や職業体験などを通して、社会と自分の関わりやそこからの学び)について考えます。将来の夢や職業を思い描きながら、中学校卒業後の進路について、主体的な選択決定ができるよう教育活動のねらいが実現していく場点が求められます。キャリア教育としてのねらいを意図的に設定していくことが大切になります。

Q4 職場体験などの体験活動を行うことがキャリア教育ですか？

A はい、それは認められます。体験活動はキャリア教育を推進する取組の一つとして位置づけられます。キャリア教育は、教育活動全体を通じて、将来子どもたちが社会の一員として責任を担い、社会的に自己実現を図っていくための活動と捉えていくべきです。

際、働くことや学びなどの目的の向上に様々な効果がある中であります。その効果を示すためには、体験活動を一貫したものにするのではなく、様々な場面で実施し、様々な活動や学習活動と関連付け、単一的な学習を押し付けることが重要です。

Q5 なぜ5日間の職場体験活動が推奨されるのですか？

A 充実した職場体験活動を実施するためには、ある程度の期間が必要となります。「特定の1日目」に仕事を体験する2日目、仕事に慣れる3日目、仕事を覚えてやる4日目、感謝の5日目」と分けられるように5日間の職場体験により、生徒の心に実感が生じます。また、人と関わり合う経験の場として、一人一人の様々な背景や成長を促し、5日間の体験は、新たな発見や失敗、つまみ食いなど様々な体験を通して、意欲や達成感を育むことと自信や自己有用性の確立、働くことと学びが

ことへの期待の向上などの様々な効果も期待できます。
もちろん、事前指導、事後指導の在り方によって、同じ活動であってもそこから学べられるものは大きく変わってきます。キャリア教育の支援のために、事前学習・事後学習を充実させ、職場体験活動を学ぶの機会にするともに、体系的・系統的なキャリア教育の一環に位置付けていくことが求められています。

Q6 中学校でのキャリア・カウンティングはどのようしたらよいですか？

A 中学校におけるキャリア・カウンティングは、生徒一人一人の将来の生き方や進路に関する様々な悩みや課題などを受け止め、自己の可能性や進路について目星を定め、適切な進路選択を提供し、必要な情報はグループ別に行き指指導を行うこととする。
また、子どもの学びに関する様々な悩みや課題などを受け止め、自己の可能性や進路について目星を定め、適切な進路選択を提供し、必要な情報はグループ別に行き指指導を行うこととする。
また、子どもの学びに関する様々な悩みや課題などを受け止め、自己の可能性や進路について目星を定め、適切な進路選択を提供し、必要な情報はグループ別に行き指指導を行うこととする。
また、子どもの学びに関する様々な悩みや課題などを受け止め、自己の可能性や進路について目星を定め、適切な進路選択を提供し、必要な情報はグループ別に行き指指導を行うこととする。

か、進路選択に向けての関わりはどの程度であったのか、特に目立つ活動や、それ以外の、いとも実行し得るような活動も同時に実施し、キャリア教育の効果を高める。この場合、子どもたちの変化を促し、さまざまな問題を解決する時間です。この場合、子どもたちの変化を促し、さまざまな問題を解決する時間です。この場合、子どもたちの変化を促し、さまざまな問題を解決する時間です。

キャリア教育をめぐる 疑問にお答えします

Q7 保護者の理解はどのように得たいでしょうか？

A キャリア教育は、生徒の自己理解や生き方などにかかわる内容で、扱うため、生徒にとってもっとも身近な大人である保護者の理解や協力が不可欠です。保護者会やPTAなどいろいろな場を通して、考え方を伝え、どのように伝えるべきか、取り組んでいるのか、丁寧に説明するようにしましょう。また、キャリア教育への直接的な関心を求め、職業人の講話、職業人インタビュー、職業体験活動などに積極的に参加してください。

加していただくほか、情報の提供を依頼することも有効です。また、特に職業体験活動の期間中は、働くことの楽しさや楽しさについて家族で語り合う機会の機会となり、会話をきっかけに子どもの成長や新たな一面を発見することにもつながります。家庭での会話のきっかけとなるような資料を作成し、各家庭に配布することも効果的でしょう。

Q8 キャリア教育を進めるとどのような効果が見られるのですか？

A ○生徒にとって
「学ぶこと」だけでなく「働くこと」の意義や重要性に気付くことなどにより、学習意欲の向上につながります。自己理解を深め、新たな自分を発見することで自己有用感が高まります。青年時代のコミュニケーションや社会生活上のルールやマナーを体得する機会が増え、様々な体験活動を通して、動機付けや職業観を身に付けることができます。

○学校にとって
学校内外における連携・協力の機会が増え、教員相互の理解が深まり、地

域に開かれた学校づくりが促されます。

○保護者にとって
家族がそれぞれ抱えている様々な役割について生徒の認識が深まることなどにより、家庭での会話の機会が増え、相互理解がより一層深まります。

○地域にとって
子どもたちや地域への関心・理解を深めることができ、地域を活性化させることができます。地域が一体となり子どもたちを育てていくことによる効果を高めることができます。

Q9 キャリア教育の評価はどうすればいいですか？

A 各学校におけるキャリア教育の実践が、その教育目標を達成し、さらにより効果的なものとなるように発展させていくためには、キャリア教育の目標を明確に設定した上で、適切な評価を行うことが大切です。

また、キャリア教育に限らず、教育全般において、計画(Plan)を実行(Action)し、評価(Check)して改善(Action)に繋ぐPDCAサイクルの循環が評価を伴っていることが重要です。

キャリア教育の実践や活動に関する評価

評価に当たっては、目標の達成状況の評価だけでなく、学習過程での評価も重要で、必要に応じてその前後の評価の確立を考慮することなども大切です。キャリア教育は、各学校が創意工夫を凝らして実践していく

けですが、その際、取組や校内前後の在り方等について「チェックシート」を作成し、評価していくことも効果的です。

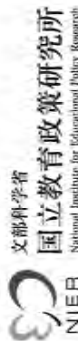
○一人一人の生徒に関する評価
生徒のキャリア発達の進捗や様相は個人差があり、進捗の影響も大きく、また目標も進捗の進捗や学校・地域によって多岐にわたることに留意しなければなりません。

一人一人の生徒の行動観察記録、取組時の感想、生徒が取り組んだ課題、授業や研修、学習成果など、様々な資料をまとめたポートフォリオが有効な情報源として活用できます。評価はできるだけ生徒に話し、また、自己評価によって生徒自身が自分の成長を実感できるようにすること

【作成協力委員】

- 署名は平成21年5月30日現在
- 青木 敬 新潟県下関市立石橋北小学校教頭
 - 鬼木 安幸 新潟県上越市教育委員会学校教育指導主事
 - 川崎 友樹 関西大学社会学部長
 - 佐々木 敬昭 千葉県千葉市立津田本郷中学校教諭
 - 佐藤 亨 東京都豊田区立寺島中学校教諭

- 西田 敏次郎 兵庫県教育委員会生涯教育課指導主事
 - 松井 賢二 新潟大学教育学部教授
 - 松岡 マミ 高知県教育センター指導主事
 - 森田 浩 シブアブファースト川中キャリア教育支援コーディネーター
 - 八咫岡 留美 東京都中野区立第八中学校工務教諭
- (敬称略 五十音順)



文部科学省
国立教育政策研究所
National Institute for Educational Policy Research

〒102-8501 東京都千代田区千代田1-1-1
 TEL: 03-6733-6882 FAX: 03-6733-6987
 URL: http://www.nier.go.jp/O4_kenkyu_amei/div09-shido.html